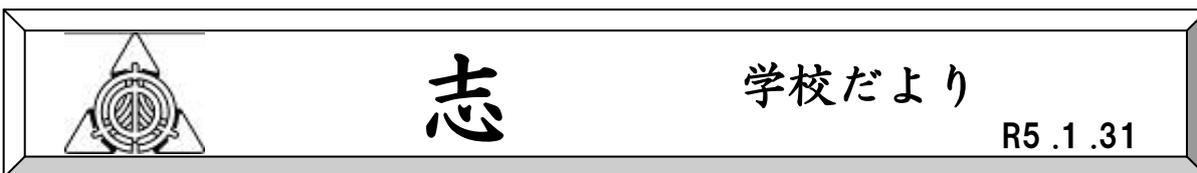


教育目標 「 知性豊かに 心さわやか たくましく生きる 」



四日市市立内部中学校 第 39 号

言葉を大切に

右の写真は、3年3組の教室の入り口に貼られているスローガンです。まさにその通りだと思いました。3年生が中学校で過ごすのも、あと僅かな日数となりました。これまで一緒に過ごしてきた大切な仲間に対して、感謝や励ましの気持ちを、優しい、「言葉」にして、たくさん伝えていきたいものです。



『言霊(ことだま)』という言葉があります。これは日本に昔からある、「声に出した言葉や音声言語が、現実の事象に何がしか影響する。」との考え方です。良い言葉を発すると良いことが起こり、不吉な言葉を発すると凶事が起こるといった迷信のような考え方で、必ずしもそうなる訳ではないと思います。しかし、「言葉」には何がしかの力があることは間違いないことです。

3学期の始業式には、『まごころ』の一年にしましょう。」と、みなさんにお話ししました。「まごころ」を込めて発した言葉は、必ず相手に伝わることでしょし、受け止めた側は、温かい気持ちになることでしょし。「ありがとう」と言うにしても、何となく言うのと、本当に心を込めて言うのでは、まったく重みや伝わり方が違ってくることでしょし。くり返しになりますが、「他人のために尽くそうという純粋な気持ち」や「偽りや飾りのない心」、「誠意」を持って言葉を発するようにしたいものです。それが、他者を『慮る』こと『思いやる』ことだと思ひます。

それでは、少し違う角度から「言葉を大切に」にすることについてお話しします。それは、「相手に気持ちをちゃんと伝えよう」と思いながら話すことです。本当にそう思ひて話すことは『まごころ』を込めることと同じですが、聴く側がちゃんと理解できるように、根拠を持って、筋道を立て、簡潔に話すことも大切です。このことは、日常生活や授業の場面でも大切なこととすし、みなさんが社会に出た際に、とても必要な技術(スキル)となります。このことを突き詰めると「論理的思考を持って話す」とも言ひます。でも、最初はそんなに難しく考えずに、「丁寧にわかりやすく話そう」「聴く側の気持ちになって話そう」と思ひて話せばそれで良いのです。

もう一つは、「TPOに合わせて話せるようにする」ということとす。友達と楽しくおしゃべりする時と、授業中に発言する時の話し方がまったく同じという人はいないと思ひます。話しかける相手によつても、みなさんは自然に話し方を変えていると思ひます。これから社会で活躍するようになった際に、「T(時)P(場所)O(場合)」に応じて、適切に話せるようにしたいものです。国語の授業でも、尊敬語や謙譲語について学習したと思ひますが、こうした話し方も、よく考えると、相手の立場や状況を『慮る』ことではないでしょし。やはり『まごころ』が大切です。

本の紹介 『ほんとうのリーダーのみつけかた』 梨木 香歩 著 岩波書店

この本の表紙のカバーに、以下のような文が書かれています。

非常時というかけ声のもと、みんなと同じでなくてはいけないという圧力が強くなっています。息苦しさが増すなかで、強そうなひとの意見に流されてしまうことって、ありませんか？ でも、あなたがいちばん耳を傾けるべき存在は、じつは、もっと身近なところにいるのです。あなたの最強のチームをつくるために、そのひとを探しに出かけよう。

みなさんは、世の中の状況が変化していることに気づいているでしょうか？それは少しずつといったものではなく、結構ダイナミックに変わってきています。自分の本当の気持ちを素直に表出できない、息苦しさのようなものを感じていませんか。世界で起きている大きな戦争が様々なことに影響しているだけでなく、非常時というかけ声のもと、みんなと同じでなくてはいけないという圧力が強くなっているように感じます。みなさんは、発言力があって強そうな人の意見に流されてしまうことがありますか？ でも、あなたがいちばん耳を傾けるべき存在は、じつは、もっと身近なところにいるのです。それがあなたにとっての本当のリーダーです。さて、それはいったい誰でしょうか？



私たちはどうしても周り（世間）の目を気にして、「自分がどう思われているだろうか？」とか「変な風に思われていないだろうか？」と勝手に思いがちです。でも、周りからの評価に振り回されたり、様々な情報に流されたりするのではなく、それらをきちんと判断し、必要に応じて正しく批判をしたりするべきです。自分のことを自分で評価できるようにするためには、自分ですっきりと考えることが大切です。そのために、基礎的な知識や技能を身につけるとともに、思考力や判断力、表現力を高める必要性を感じました。（※悔しいけど文科省の言う通りです）

この本の中で気になった言葉を、以下に少しだけ紹介します。

- ・日本の美しさ、素晴らしさは、日本語の美しさ、素晴らしさに負うところが大きい。
- ・詰まるところ、私たちも群れの動物なのです。

少し内容がむずかしいかもしれませんが、中学生であればきっと理解できると思います。自分らしく生きていくために指標となることが多く書かれていますので、是非読んで欲しい一冊です。

生徒たちのノートから

あるクラス的生活ノートに、感心させられる内容が書かれていましたので、紹介します。

- ・たくさん雪が降って休校になりました。家にいるより、みんなと過ごす方がいいと思いました。
- ・入試結果が届き合格していました。試験だから合否があるけど、みんなが合格して欲しいです。
- ・不安なことがあって涙が溢れてきました。でも学校にいる時間は仲間から元気をもらいます。
- ・授業を受けていても、あっという間に卒業になってしまいそうです。毎日を大切にしたいです。

このように温かい気持ちで物事を捉えることができる生徒たちがたくさんいることが、内部中学校の良さであり希望であると思います。過ごしやすい学校や社会へとつなげていきましょう。